

TP

Tom's Press  
|トムズプレス|



特集

夢に向かって挑戦する学生たち

ようこそ富山大学へ

学生座談会

先輩のスキルアップライフ

富大流×キャリアサポート

# 富山大学の Campus calendar

富山大学での1年間の行事を紹介。  
仲間と一緒に楽しもう！

トリニジュ

富山大学へ

富山大学では、一年を通してたくさんの行事が行われます。富山県内でも、季節によって様々なイベントや自然を体感できます。一瞬一瞬を大切に、思い出を刻みましょう！



9月

## 理工ジョイントフェスタ

理学部主催の「サイエンスフェスティバル」、工学部主催の「夢大学in工学部」は時期を合わせて開催しています。子どもから大人まで、科学と工学の面白さに触れてもらえるよう、さまざまな実験や展示、体験教室を展開しています。



4月

## 入学式

五福・杉谷・高岡各キャンパスの8つの学部と大学院の新入生2000人以上が一堂に会し、入学式を行います。入学式終了後には、各課外活動団体のブース説明会も開かれ、各団体の学生が新入生を迎えようと熱心に勧誘を行います。

## オープンキャンパス {7-8月}

7月から8月上旬にかけて、各キャンパスでオープンキャンパスが行われます。各学部で模擬授業や在学生による講座紹介を行い、多くの高校生で賑わいます。



## 4~6月 雪の大谷 ウォーク



「雪の大谷」では、歩行者用通路として開放した片側を歩くことができ、20mに迫る「雪の壁」を間近で見る迫力は想像以上です。

## 4月 松川・ お花見遊覧船



松川公園(富山市)は、「日本さくら名所100選」に選ばれた桜の名所です。遊覧船が運航され、シーズンには水上から約470本の桜のトンネルを眺めることができます。

## 4~5月 となみ チューリップフェア



700品種、300万本のチューリップが色あざやかに咲き誇る、国内最大級のチューリップフェアです。

### 富山県の Event

四季折々の姿を見せる  
富山県の魅力を、体感しよう！



### 11月 スマイルフェスティバル

「子どもと触れ合いたい」という学生の思いから誕生し、学生が主体となって企画・運営を行う人気イベントです。毎年、多くの子ども達とその保護者の方々にご来場いただいています。



### 2月 卒業研究・制作

最終学年に卒業論文の制作や卒業研究が行われます。芸術文化学部では、毎年、一般公開の形で卒業制作展を開催しています。



### 3月 学位記授与式

学位記を授与された学生たちは仲間や後輩に祝福されながら、新しい一歩を踏み出します。



### 富山大学祭 {10月

富山大学では10月を「大学祭月間」として、各キャンパスで大学祭を開催しています。

3 March

2 February

1 January

12 December

11 November

10 October

9 September



### 10月 富山マラソン

高岡市役所前をスタートし、新湊大橋などを通り、立山の大パノラマなど富山県の自然を楽しみながら、富山市の富岩運河環水公園のゴールを目指します。



### 五箇山の ライトアップ {1月~

世界文化遺産の五箇山・菅沼合掌造り集落(南砺市)で、冬のライトアップイベントが行われます。集落を照らす柔らかな光と雪景色のコラボレーションが、魅惑の世界に誘います。



### おわら風の盆 {9月

越中八尾で300年余踊りつがれてきた「越中おわら」。その唄と踊りは叙情豊かで気高く、哀調の中に優雅な趣を有しています。艶やかで優雅な女踊り、勇壮な男踊り、哀調のある音色を奏でる胡弓の調べなどが来訪者を魅了します。

わたしたち  
が思う

富山大学って

こんなところ！

世界を  
広げてくれる場

自分らし  
を出せる

学びの  
場

夢を  
見つける  
場所

出会い  
へ入chance

様々な分野で活躍している富山大学生5人に、  
普段のキャンパスライフからこれからの目標まで、  
本音を語ってもらいました。

# 夢に向かって

# 挑戦する学生たち

大学生生活での出会いが、  
自分の人生や考え方を  
変えてくれた。

**加川** 岐阜県神岡町で行われている、重力波望遠鏡「KAGRA（かぐら）」の研究に携わっています。3年生の時にKAGRA見学会に参加して、その時から「やれたらいいな」と思っていました。研究室に配属になった時に、やはり重力波に興味があったので、KAGRAプロジェクトを希望し、参加することになりました。

**河合** 「まちづくり」というキーワードに、昔から興味を持っていて、まちづくりを専門に研究しているらっしゃる人文学部大西准教授の授業で、より興味を持ちました。友達に誘われて、「街なかマイクアップサポーター」というサークルにも加入しました。2年生からは大西先生の研究室で、まちと関わる研究をしながら学生生活を送っています。

**嶋倉** 「学びのアシスト」という学習支援の授業をきっかけに、「とな

み野サマーチャレンジ」「理科実験アシスタント」などのボランティア活動を通して、現場の状況と、子どもたちの可能性について、学んできました。昔から教えることに興味がありました。昔から教えることに興味がありました。昔から教えることに興味がありました。昔から教えることに興味がありました。



**岡川** 高校の放送部で、ドキュメンタリーを制作するうちに、地域で起こっていること、頑張っている人を伝えることが楽しくて、「人にものを伝える仕事に就きたい」と思うようになりました。最近では「放送研究会」の仲間と、金沢で活版印刷の工房を始めた女性のドキュメンタリーを制作、「全映協グランプリ最優秀賞」を受賞しました。

**古西** 医師と薬剤師が協力して、治

療方針を決めていく制度が進んでいくカリフォルニア州の南カリフォルニア大学で開催された「臨床薬学研修」に、参加しました。実践的な演習が行われる中、言葉の壁にぶつかりながらも、海外の学生とコミュニケーションを取り、一緒に学ぶことができました。英語の必要性に気が付き、帰国後も勉強しています。



**人との出会いを大切に、  
勇気を持って動けば  
輪が広がる。**

**加川** KAGRAと言っても、全然さびやかな世界じゃなくて、水がポタポタ落ちてくる洞窟で、測量や設置など、物理に関係がない作業もやっていたので、大変なことも多かったです。楽しかったのは、柏市の「東京大学宇宙線研究所」や、ワシントン州の砂漠にある重力波研究施設への出張です。研究環境が整っていて新鮮でした。

**河合** 学生の学生による学生のための祭典「MAG・fes（マグフェス）」

では、急な変更への臨機応変な対応が必要で、大変でした。それでも終わった後で、会場であるグラウンドブラザのスタッフの方に、温かい言葉をもらうことができ、とてもうれしかったです。素晴らしい先輩や大人の方と、一緒に活動できたことは非常に大きな経験になりました。

**嶋倉** 新潟出身なので、はじめは富山の小学校での授業の進め方や言葉の違いに戸惑いました。また、子どもに対しては臨機応変な対応が必要で、「これが正解」というものはありません。それでも、最後に「楽しかった」「来年も会おうね」と手紙をもらえました。そういう感情を与えることができ、とてもうれしかったです。

**岡川** 取材対象である女性の、「古いものを無くす必要はない」という考え方に共鳴し、それと新幹線開業で、急激な変化が起きている金沢という街をからめて紹介しました。2つのテーマを分かりやすく伝えるため、技術的な問題と取材したものとすり合わせに苦労し、1年がかりの制作になりましたが、より深く対象と関わることができました。

**古西** 頑張ったことも苦労したこと、コミュニケーションです。会話の流れを登校前に考えておいたり、専門用語を皆で予習したりしました。グループディスカッションで、外国

の学生たちのグループに飛び込んだおかげで、仲良くなって一緒に遊んだり、懇親会をしたり、楽しかったです。勇気を持って動いたら、人の輪が広がり、考え方も変わりました。

**子どもの頃から夢が、  
今の自分を  
作ったのかも。**

**古西** まちづくりって、地域によって違いがあると思うんですが、富山との違いや、意識の違いはありましたか？

**河合** 金沢で活動している学生と交流した時に感じたのは、富山はまず人を呼びこむことから考えるけれど、金沢は既にまちに若者がいるので、「まちを使って楽しいことをやるぞ」という活動方法の違いでした。「やりたいことは違うけれど、色んなことができる」と新鮮に感じました。また、「全国まちづくりカレッジ」というイベントでは、カフェを経営するなど、一点に絞ったやり方をしている所もありました。自分たちのまちのことをよく知った上で、土地を上手に生かしている手法は、見習おうと思いました。



人文学科社会文化コース。富山市総曲輪通りの「富山まちなか研究室MAG.net」を拠点に活動する学生サークル「街なかメイクアップサポーター」のメンバーとして、様々なイベントの企画・運営や街の情報発信など、若者を街に呼び込み、街なかを盛り上げるための活動を行っている。



人文学部 2年  
**河合 瑞季**さん [富山県出身]  
かわい みずき

理学部物理学科4年次よりレーザー物理学研究室に所属。重力波の直接検出を目指して、東京大学宇宙線研究所をはじめ国内外の多数の研究機関・大学の研究者が共同で建設を進める「大型低温重力波望遠鏡・KAGRA」のプロジェクトに参加し、岐阜県飛騨市神岡鉱山跡地に建設中の実験施設での作業などに携わった。



大学院理工学教育部 修士課程2年  
**加川 智大**さん [大阪府出身]  
か がわ ともひろ

「街なかメイクアップサポーター」として、イベントの企画やお手伝いをしながら、若者をまちに呼び込む活動をしています。

KAGRAで見ようとしているのは、天体の大きな現象の時にた重力波です。これから大きな進歩が期待される研究だと思っています。



芸術文化学科デザイン情報コース。富山大学放送研究会に所属し、「地方」をテーマとしたドキュメンタリー番組の制作などを行う。金沢市で活版印刷を営む女性を取り上げた映像作品「文字をむすぶ」では、「地方の時代」映像祭の優秀賞、全国地域映像団体協議会の全映協グランプリ2015の最優秀賞をそれぞれ受賞した。

芸術文化学部 3年  
岡川 春樹さん [福井県出身]  
おかがわ はる き

**嶋倉** 春から小学校の教師になるので、参考にお聞きしたいのですが、小学校の頃はどんなことに興味がありましたか？

**古西** ドラマや漫画に影響されやすく、ドラマを見て将来の夢を描いていました。あまり知られていない職業のことを教えてくれる先生がいてくれると、子どもたちの視野が広がって、いいですね。

**嶋倉** そんな先生になれるよう、頑張ります！

**岡川** 人が興味を持つものに興味がない子どもでした。食品のパッケージを集めたり、ホームビデオを撮っ

て、ナレーションも付けて、家族に見せたり。面白いものを人に伝えることが好きでした。

**嶋倉** 一つのこと集中して、納得するまで追究する子どもでした。ただ、チャレンジ精神はあるけれど、三日坊主なところがありましたね。

**河合** 小学校の頃は、和菓子屋さんとパティシエに憧れていました。大学に入って、大西先生に出会って人生が変わりました。「人間の行動を決める上で、まちが大きな影響を及ぼす」という言葉を聞いて、まちづくりにたどりつきました。

**加川** ドラマの影響で、弁護士になるうと思っていました。それが中学校に入って、得意科目が国語、社会、理科になって。好きなところに行こうと理学部を選びました。

将来の夢は大きく。  
実現に向けて、  
今やっていること。

**古西** 海外に行ったことで、世界の人との関わりを感じるようになりました。「メデイカルサイエンスリゾン」になり、薬の先にある患者さんの命に貢献したいと思っています。そのため、英語の勉強はもちろん、インターンシップに参加したり、エントリーシートを書く練習をしています。



**岡川** 地域に根ざす、地方放送局のディレクターや、プロデューサーになりたいと思っています。「極限まで地域のアイデンティティを突き詰めると、最終的に世界に通用するオンラインワンの価値が生まれる」ということを、この数年で実感しました。北陸から情報発信して、人々の心を揺さぶったり癒しになったりするものを提供するのが目標です。

**嶋倉** 視野が広い教師になりたいと思っています。ボランティア活動で実際に小学校に赴いた時に、「教師の考えが保護者に伝わっていないのでは？」と感じる場面がありました。保護者との信頼関係を築いていける教師になるため、今は、違う学部の友達や他大学の友達と話したり、いろいろな立場の人と話したりして視野を広げています。

**河合** M A G : f e s では、多くのことに気付かせてもらいました。「まちに人を呼びたいと考えた時に、まちに

薬物生理学研究室に所属。2015年夏に、本学薬学部と交流協定を結ぶ南カリフォルニア大学薬学部での「臨床薬学研修」に参加。南カリフォルニア大学薬学部は薬学教育の先進国であるアメリカでも臨床薬学に強い名門校として知られ、日本、韓国、アメリカの学生らと共に研修を行った。



薬学部薬学科 5年  
古西 孝行さん [富山県出身]  
こにし たかゆき



発達教育学科学校教育コース。1年次に「学びのアシスト」として、県内の小学校に通い、学級担任の補助や学習支援などのフィールドワークを経験。この他、理科の「観察実験アシスタント」としてのインターンシップや、子どもを対象とした学内外のイベントでのボランティアなど、精力的に活動を行う。

人間発達科学部 4年  
嶋倉 柚香里さん [新潟県出身]  
しまくら ゆかり

加川 初志貫徹。最初に思ったことをやりぬいて欲しいと思います。僕は、去年は週に3〜4日、神岡に通つ

大学での経験が、  
未来を作る。  
新入生へ贈る言葉は……。



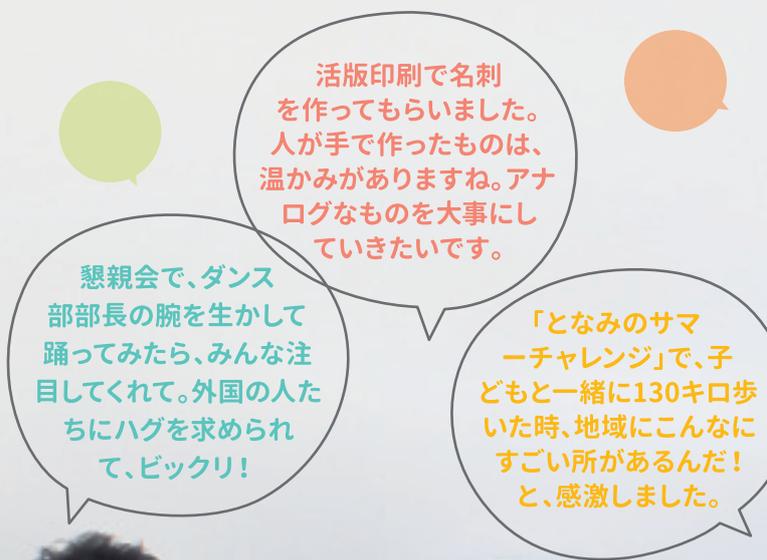
古西 人との出会いを大切に、何事にもチャレンジして欲しいと思います。僕も、海外研修では思い切った韓国から来た学生のグループに飛び込みました。そこから仲良くなって、国は違っても、「患者さんのために」という思いは同じということを感じました。いろいろな背景を持つ人と話すことで、考えが深まり、夢が定まっていくこともあると思います。

岡川 高岡キャンパスには放送系のサークルがなかったので、五福キャンパスのサークル「放送研究会」の門をたたいたことから、道が開けました。もし、やりたいことが見つからなくても、あきらめずに続けていくと、どこかでつながっていくと思います。広い視野を持って、夢を忘れずに頑張ってください。

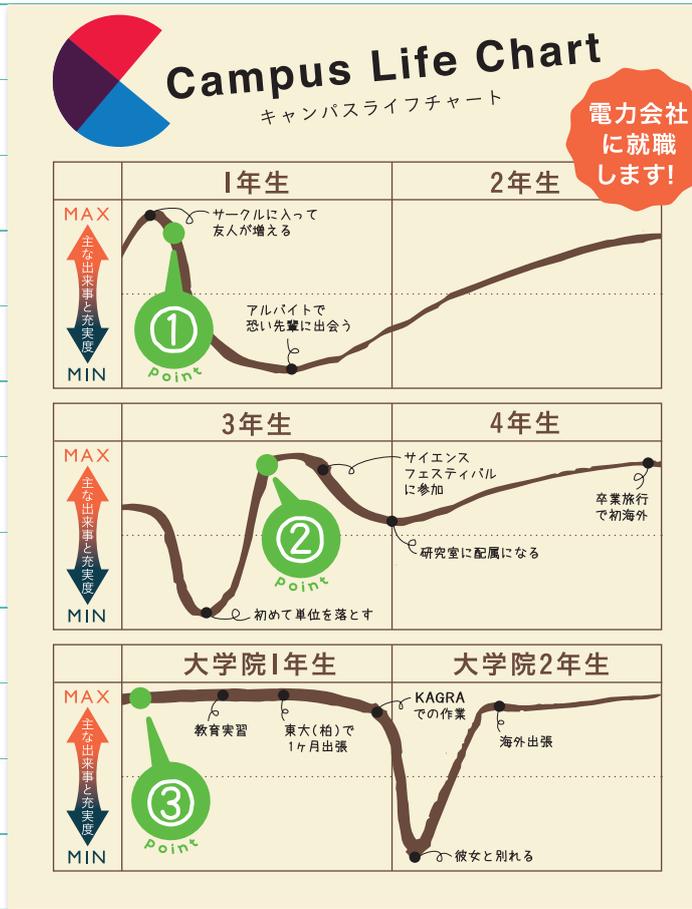
嶋倉 やりたいと思ったら、実行することです。また、実行したことで何を学んだかを、心に留めておくと思います。

河合 何にでも自分から参加する。自分で探そうとしないと、情報を得られないのが大学です。自分でアンテナを張ることが大切だと感じます。

加川 4月から電力会社に就職します。大きな組織の中で、自分の立場や居場所を作り、組織を動かして、一つの目標に向かっていけるような社会人になりたいと思います。今は、修士論文と、自分のポジションを後輩に受け継いでもらえるよう、指導を頑張っています。後輩には、KAGRAの中心になって頑張ってくださいと思います。



# 大学生生活はスキルアップのチャンス!



## KAGRAとの出会いが転機に



大学院理工学教育部 2年  
加川 智大さん

博士課程に進むか迷ったのですが、KAGRAで出会った研究者に電力会社を勧められたことが転機になりました。就職のために特別にやったことはないのですが、日々の研究を地道に頑張ったことや、アルバイトや自転車旅行で、気合いと根性が身に付いたことなどを、評価していただけたのかなと思います。また、KAGRAに携わったことで、研究を人に説明する機会が増え、説明する力が身に付いたことも良かったと思います。富山大学でKAGRAに携わることができ、本当に感謝しています。就職活動は一発勝負ではなく、日ごろの積み重ねです。「自分はこの目標のために、これをやっています」と言えるような大学生活を送ってほしいと思います。

- point 1 ▶ 寿司屋で初めてのアルバイトを開始。この6年間で根性と、人との話し方が身に付いた。
- point 2 ▶ 「若いうちに無茶してみよう」と、自転車で大阪～東京を走破。気合で乗り切った。
- point 3 ▶ KAGRAに携わり、たくさんの人と出会う。電力会社を勧められたことが人生の転機に。

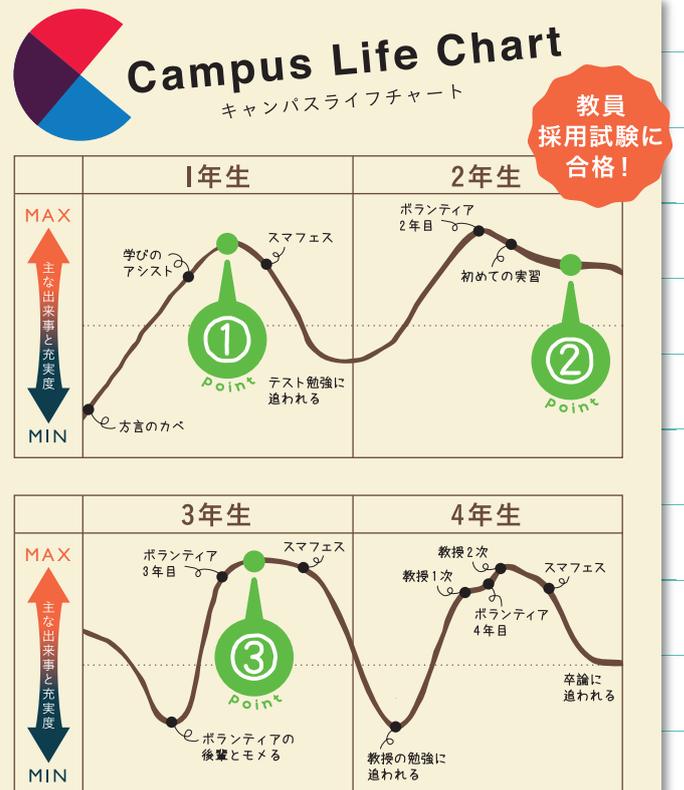


人間発達科学部 4年  
嶋倉 柚香里さん

1年の時に「学びのアシスト」授業で、教育現場を体験したのをきっかけに、子どもたちと触れ合うボランティアをずっと続けていました。就職を意識したのは、3年の実習の頃からです。3年の後期に開かれた「教員セミナー」にも参加し、4年の前期からは、一次試験の集団討論の練習も始めました。これは、学生主体で予定を立てるのですが、友人と2人で参加者を募ったり、先生に依頼したり、とりまとめ役を務めました。ボランティアで「自分から動かないと何もできない」ということに気付いた経験が、大きかったと思います。また、ボランティアでは保護者と面談する機会もあり、保護者の視点からの討論ができるようになったのも大きな収穫でした。

## ボランティア経験が大きな収穫

- point 1 ▶ 初めてのボランティアに参加。子どもたちと「となみ野」を歩き、地元に興味が湧く。
- point 2 ▶ 「スマイルフェスティバル」で巨大迷路を担当。メンバーの対立を取り持つ経験をする。
- point 3 ▶ 2回目の教育実習。1回目と違い、余裕を持って子どもたちと関わることができた。



## 就職・ キャリア支援センター

就職・キャリア支援センターでは、就職活動を行うことで感じる様々な不安や悩みについての個別相談や、就職・インターンシップ等に関する情報収集と提供、各種就職ガイダンス、就活プログラム等を実施するとともに、キャリアについて考えるきっかけとなるよう、1年次からキャリア向けのガイダンスも開催しています。

## 学生による 学生のための就活支援

就活生が就活生の目線で就活生を支援する「キャリアサポーター」が活動しています。就活生が知りたい情報を掲載した「富大就活日記」の企画編集や、先輩とのパネルディスカッションや企業への質問コーナーを盛り込んだガイダンスを開催しています。

# 一人ひとりと向き合う 富大流 × キャリアサポート



就職・キャリア支援センター  
五福キャンパス 学生会館2階

卒業3年以内離職率 **8.7%**

一般的に、大卒就職者の3年以内離職率は約30%とされていますが、富山大学卒業生の3年以内離職率は8.7%と大変低い数字です。

※卒業生進路実態調査結果(平成26年3月)より

## “県内企業の魅力を発信” 地域定着プログラムがスタート

富山大学では、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の一環として、卒業生の地元就職率の10%向上を目標に、「県内就職支援セミナー」「県内企業訪問」「県内企業の海外展開を学ぶグローバル人材育成」「中・長期インターンシップ」などの事業を展開します。



知る

県内の高等教育機関で構成される「大学コンソーシアム富山」と連携し、「県内企業訪問」バスツアーを実施します。業界別に設定された10コースから選ぶことができ、午前・午後で各1社ずつ訪問します。実際にその業界で働いている人の姿を見て、聞いて、話すことで、県内企業の魅力を発見してもらうことが狙いです。

大学1年次から参加可能で、早い時期から社会体験の機会を持つことで、就業意識の向上を図ります。

また、富山県や地元企業と連携し、「県内就職支援セミナー」を実施します。企業の人事担当者の生の声を聞くことで、富山県の産業・企業の魅力、県内企業の魅力を知ってもらい、県内企業への就職を促進します。



定着する

県内企業や自治体等で活躍する女性管理職等の方々をお呼びして、講演会の開催や、女子学生との情報交換の場を設けます。県内でキャリアを持って活躍する女性の話を聞くことにより、県内就職への意識を高め、県内定着の促進を図ります。

これらのイベントでは、ライフプランについて女性の視点から話を聞くことができます。それによって、持続的なキャリアを追及するとともに、ワークライフバランスに配慮し、充実した家庭生活を送ることができるよう、女子学生の就職後の「Quality of life (クオリティ オブ ライフ)」の向上につなげます。



育成する

グローバルに展開する県内企業の魅力を発信するため、海外で事業展開している企業の現地事業所等を訪問します。海外で頑張っている姿を実際に見ることにより、将来的に海外で活躍する地元企業への就職につなげるとともに、グローバル社会で活躍できる国際的感覚を身に付けた人材を育成することが狙いです。

富山県や県内企業と連携し、中国やASEAN諸国への派遣を予定しています。



意識する

県内企業と連携して、富山の魅力、企業の魅力を知ってもらうため、「中・長期インターンシップ」を実施します。具体的なテーマを設定し、これまでの1~2週間程度のインターンシップと組み合わせ、3~4カ月程度の就業体験を行うというものです。文系理系の区別なく、一連体験型インターンシップです。

富山県の産業や県内企業をより理解することができ、地元企業就職の促進につながるとともに、学生のキャリア形成支援をより一層深化させることが期待できます。

# 大学情報

## News & Information

### 卒業・修了制作展「GEIBUN7」七彩を開催

### 芸術文化学部

2月20日から3月6日まで、高岡市美術館において、芸術文化学部・大学院芸術文化科学研究科で学んだ約130人による卒業・修了制作展「GEIBUN7」を開催しました。今年は“美しい彩り”を意味する「七彩(シチサイ)」をテーマに、学生ら一人一人が磨いてきた個性や感性を生かして、大学生活の集大成となる作品の展示を行いました。また、会期中には学生企画によるゲスト講演会やイベントも行われ大いに賑わいました。



### 附属学校教諭が文部科学大臣 優秀教職員表彰を受賞

### 人間発達科学部

人間発達科学部附属特別支援学校の大村和彦教諭が学校教育における教育実践等に顕著な成果を挙げた者として平成27年度文部科学大臣優秀教職員表彰を受賞しました。今回の受賞は、障害のある児童生徒の自立的・主体的な行動を支えるICTを活用した「支援ツール」や「参加を促す授業づくり」において顕著な実践力や指導力を発揮し、特別支援教育の発展に寄与したことが認められたものです。



遠藤学長(前列右)に受賞の報告をする人間発達科学部附属特別支援学校大村教諭(前列左)

### ハノイ国家大学外国語大学と 部局間学術交流協定を締結

### 人文学部

人文学部・大学院人文科学研究科は、ベトナム社会主義共和国のハノイ国家大学外国語大学と部局間学術交流協定を締結しました。同大とは2012年度以降、研究者交流を続けており、今後は本協定に基づき、交換留学生や短期プログラムによる学生交流、国際シンポジウムの開催や共同研究などの研究者交流を本格的に展開するだけでなく、人文学部がベトナムと富山県との交流拠点として地域貢献を果たしていくことをも目指しています。



協定書を取り交わす大工原人文学部長・人文科学研究科長(左)とNguyen Hoaハノイ国家大学外国語大学長(右)

### 地球電磁気学研究室が 氷見市の寺院跡を調査

### 理学部

地球科学科酒井英男教授の地球電磁気学研究室では、氷見市教育委員会と連携して、8世紀初めに有力豪族・安努君広嶋(あめのきみひろしま)が建立したと推測される氷見市・小窪の寺院跡「小窪廃寺」の地質調査を実施しました。寺院の具体的な規模や建設年代の解明に役立てるため、学生らがレーダーによる地中の探査や、瓦窯跡の地磁気測定などを行いました。3月には調査結果をまとめ、成果発表を行う予定です。



### 学生らが国際ビジネス研究 インターカレッジ大会で3位

### 経済学部

国際ビジネスを学ぶ大学生らが研究成果を学術論文形式で発表し、チーム対抗で優勝を目指す研究報告の全国大会「第5回国際ビジネス研究インターカレッジ大会」が12月19日、本学黒田講堂で開催され、全国15大学から17ゼミナール30チーム約200人の参加がありました。本学から参加した経済学部内田康郎教授ゼミナールSNS班の学生らが英語セッションにエントリーし、「A Study on the Disadvantage of Enterprise SNS(企業内SNSにおける劣位性)」をテーマに発表を行い、総合3位に入賞しました。



## 各学部・部局でのニュースや学生の活動、行事などを紹介します。

### ピアエデュケーション研究会が 若者向けイベントで発表

#### 医学部

若い世代に結婚や出産などのライフプランを考えてもらう目的で、県が12月20日に富山市内で開催した「マイライフUPフェス」において、医学部看護学科母性看護学講座の思春期ピアカウンセラー養成講座を受講した学生らでつくる「ピアエデュケーション研究会」が活動発表を行いました。デートDV(ドメスティックバイオレンス)について寸劇による解説を行ったほか、ブースを設け来場者の相談に応じました。



### 知能情報工学科3年生らが 学生ものづくり・アイデア展で銀賞

#### 工学部

12月5日に富山大学、新潟大学、長崎大学の三大学の連携により、新潟大学で開催された「第13回学生ものづくりアイデア展 in 新潟」において、本学工学部知能情報工学科3年生らのLEDバルーンチームが銀賞を受賞しました。同チームは、2015年春・秋に富山市中心部で開催されたライトアップイベント「アメイジングナイト」に出展したLEDを用いたバルーン展示を基に発表を行いました。



### 東田准教授が日本薬学会の 学術振興賞を受賞

#### 和漢医薬学 総合研究所

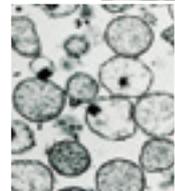
和漢医薬学総合研究所東田千尋准教授が、平成28年度日本薬学会の学術振興賞(衛生化学・薬理学部門)を受賞しました。本賞は、薬学の基礎および応用に関し、専門分野で優れた研究業績をあげ、その振興に寄与し、世界的にも注目される発展性のある研究者に贈られるものです。受賞研究内容は「神経変性疾患の新しい治療戦略に関する研究」です。本研究を中核としたプロジェクトは、現在、富山大学が重点的に進める研究の一つとなっています。



### 今中教授が日本薬学会の 学術貢献賞を受賞

#### 薬学部

大学院医学薬学研究部(薬学)今中常雄教授が、薬学の基礎および応用に関し、専門部門で優れた研究業績をあげ、薬学の発展に顕著な貢献をなした研究者に贈られる、平成28年度日本薬学会の学術貢献賞を受賞しました。受賞研究内容は「ペルオキシソームの形成機構と機能ならびに遺伝病に関する研究:ABCトランスポーターを中心に」で、生物化学、微生物科学の部門で優れた研究業績であることが認められての受賞となります。



ラット肝臓から単離したペルオキシソームの電子顕微鏡写真

### 和歌山県田辺市と人材育成の 連携に関する覚書を締結

#### 地域連携 推進機構

地域連携推進機構は、1月29日に和歌山県田辺市と「人材育成の連携に関する覚書」を締結しました。これまで本学では、富山県内において「魚津三太郎塾(魚津市)」、「高岡共創ビジネス研究所」(高岡市)の地域再生塾や、舟橋村での地方創生への産学官金メディアによる実践的なプロジェクト運用など行っており、そのノウハウを基に田辺市の「価値創造プロジェクト」の地域政策の実践のため、職員育成と事業推進への共同研究活動を行うこととしています。



覚書を取り交わす鈴木基史理事(地域貢献担当)・副学長(左)と池田正弘田辺市副市長(右)

### Smart Café 「生きづらさを考える」を開催

#### 男女共同 参画推進室

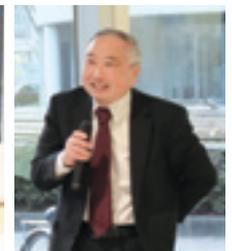
男女共同参画推進室では、2015年10月から2016年3月まで全5回シリーズで、「生きづらさを考える」と題し、それぞれの立場で自由に意見交換する機会としてSmart Caféを開催しました。毎回学内外からゲストスピーカーを迎え、「家族介護」や「DV(ドメスティックバイオレンス)」、「うつ」などの身近なテーマで講演・座談会を行い、本学教職員や学生、一般市民らが熱心に聞き入っていました。



平尾 隆氏(第2回)



向 富士子氏(第3回)



村田 晃氏(第5回)

# 微粒子の観測を通して

## 地球温暖化の解明に取り組む

「このまま地球温暖化が進むと危機的な状況にあると言えます。大気物理学の観点から、地球温暖化などの気候問題の解明に取り組んでいきます」と、青木教授は語る。

青木教授の研究室では、大気中に浮遊する微粒子（エアロゾル）と雲が、地球の気候にどのような影響を与えるのかを研究している。研究対象地域は、極域から熱帯、海から山にいたる地球の空すべて。「自分の目で見て、肌で感じたデータを大切にしたい」との思いから、国内外の大学や研究機関と共同研究を行い、世界中の観測地を飛び回る日々を送る。

エアロゾルとは大きく分けて、黄砂粒子、火山噴火、海塩粒子のような自然起源のものと、工場からの煤煙、自動車の排ガスなどの人為起源のものとの2種類に分けられる。最近問題となっている



上: JAXA筑波宇宙センターにて  
下: 立山に積もった雪を調査する学生

る「PM2.5」とは、粒子の直径が2.5マイクロン以下の粒子のことで、人為起源の微粒子だ。人為起源の微粒子は、自然起源のものに比べて粒が小さい。そのため雲が成長しづらくなったり、大気に留まる時間が長くなり太陽光が遮られたり、雨が降りづらくなったりと、地球の気候に影響するという。

最近では、2016年度後半に打ち上げを予定しているJAXAの気候変動観測衛星「GCOM-C」との共同研究に、忙しい日々を送る。GCOM-Cは、地球の大気汚染や雲の様子などを、宇宙から観測する。より正確な地球の状態を知るためには、地上から精度の良い観測も必要不可欠なため、研究が進められている。

### 標高3千メートル 立山における積雪調査

青木教授のもう一つの取り組みが、立山・室堂平の積雪調査や富山大学立山施設のある浄土山での山岳大気研究だ。毎年4月中旬に、地球科学科の島田准教授とともに富山大学理学部と他の教育・研究機関が集まって、半年間に降り積もった雪の調査を行う。

「地球環境の変化をいち早く観るのに適した、富山大学ならではの研究環境だと思います。標高3千メートル級の山に半年間に積もった雪を、自

分たちの手で約7メートルも掘るといふことは、学生にとってなかなかできない経験です。先人から受け継いで、40年以上続くこの研究を、今後もぜひ続けていきたい」と、教授は語る。

「今後の目標の一つは、エアロゾルや雲が地球温暖化などの気候問題にどう影響するか、さらに解明していきたいということです。そして、もう一つは、立山のような素晴らしいフィールドで行う、富山大学ならではの他分野融合した教育研究に、学生が積極的に取り組んでもらえるような環境をつくってきたいです」と、教授。

昔から宇宙が好きで、子どもの頃の夢は宇宙科学者。「今は、地球を惑星の一つとすれば、宇宙（惑星大気）を研究している気持ちです」と語る教授の熱い思いが文字通り地球を駆け巡っている。

### 世界中での微粒子観測 立山での山岳調査など 地球環境問題を研究

雲や大気中に浮遊する微粒子（エアロゾル）を観測し、気候への影響について、物理学的な手法を用いて解析。地球温暖化などの地球環境問題の解明に取り組む。標高3千メートルでの、立山の積雪調査や山岳大気研究も、ライフワークの一つ。

自分の目で見て  
肌で感じたデータを  
大切にしたい

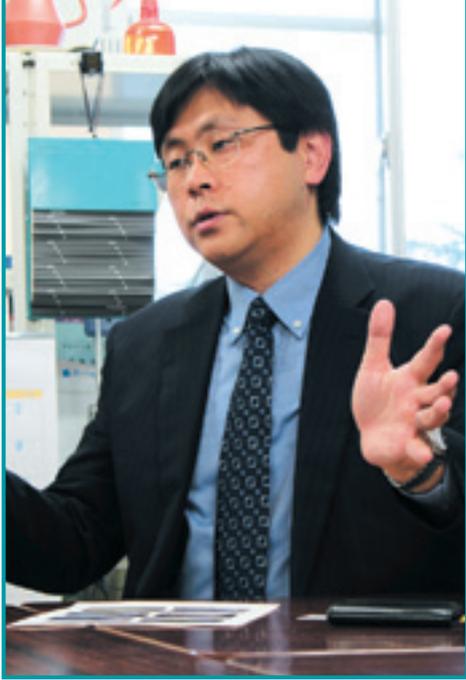
理学部 地球科学科  
教授

青木 一真

あお き かず ま



# 県と共同で高齢者の認知症を研究 地域課題の解決に取り組む



地域における高齢者の医療・介護・予防・生活支援・住まい、この5つの要素を一体化した「地域包括ケアシステム」を各地域で作ることを目的とした、国の「医療・介護総合確保推進法」を受け、富山大学でも「地域連携推進機構地域医療・保健支援部門」での取り組みがスタートした。関根教授は同部門長として、今後の富山県が抱える問題の同定と解決のための様々な事業を行っている。

その中で代表的な事業が、富山県の高齢者における認知症研究だ。県では80年代から約30年間で計6回認知症の研究を行っており、そのデータを基にした認知症研究を、昨年4月から本格的にスタートさせた。

「認知症、子どもの生活習慣と肥満、ストレスと健康など、さまざまなテーマについて社会調査

を行っています」と関根教授は語る。得られたデータを基に、社会の課題を見つけ出し、疾病との因果関係を明らかにし、情報の発信、地域住民の人材育成、国や市町村の施策への反映といった手段を用いて、地域課題の解決に取り組むという。

## なぜ今、認知症なのか 地域課題として大事な理由

近年、高血圧への対応が進むにつれ、介護の原因で多かった脳血管障害は減少したが、最近では認知症が上昇傾向にある。今回の研究によって、富山県では脳血管性認知症が減り、アルツハイマー型認知症が伸びており、特に、女性の85歳以上の認知症が急増しているとの結果が出た。

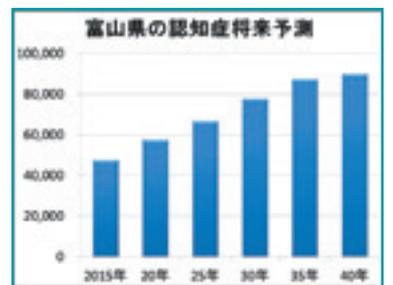
さらに、関根教授の将来予測によれば、20年間で富山県の65歳以上の高齢者の4人に1人、およそ9万人が認知症になる可能性があるという。介護や医療を支える若い世代が減少している現代において、今後は認知症問題に取り組んでいかなければ、保健医療のシステムが崩壊する恐れがある。

認知症の完治は難しいが、発症や進行を遅らせることはできる。早期発見、早期対応が治療の鍵となる。また、糖尿病やメタボリックシンドロームの人は、アルツハイマー型認知症になりやすいという研究結果もある。予防のために

は、地域住民の啓発、生活習慣の改善、認知症健診なども進めていかなければならない。

そのほかにも、認知症患者に対する医療施設が県の中心部に偏っているという問題もあり、対応が必要である。さらに、認知症を介護する家族がどんな負担をかかえているのか理解して対策を立てることも求められている。

「社会調査を実施して、要因と疾病との因果関係を明らかにし、それを地域にいろんな形で還元していくのが、私の講座のミッションです」と関根教授。研究によって地域課題を明らかにするだけでなく、それを講演活動や施策立案への協力など、さまざまな手段を通して、地域に役立てていく。地域の健康づくりのための取り組みが、日々続いている。



## 地域の健康づくりを テーマに、幅広く 調査研究を行う

県と共同で「富山県における高齢者の認知症」研究を行う。地域の健康づくりを大きなテーマに、公務員のストレス研究、子どもの睡眠不足と肥満の関係なども研究。国の施策に取り入れられ、子どもの睡眠習慣改善など、大きな成果を上げた。

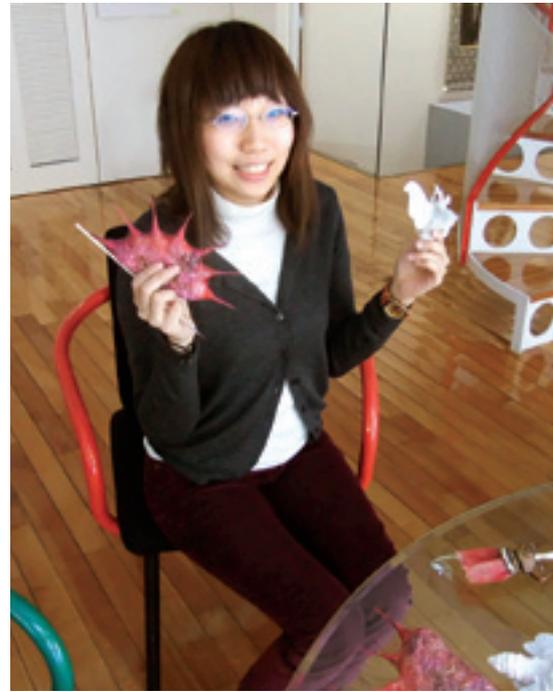
地域社会と連携した  
様々な医学研究を実施  
地域課題解決を目指す

医学部 医学科  
疫学・健康政策学講座 教授

関根 道和  
せきね みちかず



上:関根教授による試算  
下:COC+シンポジウムでの講演(2015)



## 川越 ゆりえさん

- 職業 / 作家
- 修了年月 / 2013年3月
- 専攻課程 / 大学院芸術文化科学研究科芸術文化専攻

### 様々な人・作品・物事に触れ、制作のヒントに

私は現在、作家として制作及び展示等の活動に励みつつ、美術館での仕事もさせて頂いております。美術作品に触れ、またその作家の事を勉強する事で自身の作品制作へのヒントに繋がります。そして現在私は、人間の様々な感情をテーマに作品制作を行っております。人と触れ合う事で、自身の作品における形や色などの点で様々なインスピレーションを受け、制作に繋げる事が出来ます。またご来館されたお客様に作品及び作家の解説をさせて頂く際も、また自身が作品制作を行っている事により、作家という視点から自分の言葉で話す事が出来るので、互いに良い影響を及ぼしております。

大学時代の私は、作品制作をしつづも富山大学フィルハーモニー管弦楽団に所属し、そこでクラシック音楽や、大勢の仲間との触れ合い、練習スケジュールと作品制作の両立等多くの事を学び、経験致しました。作品制作する際でも、クラシック音楽の旋律や表情から色彩や形のヒントを得たり、いかなるハードスケジュールでも時間を捻出して制作を進めたり等、あの場での経験が、今の自身を支えていると強く感じます。

現在在籍されている方へ、メッセージという程大層なものではありませんが、時間が許す限り様々な作品や物事に触れ、大いに遊び、感性を磨いて行って欲しいと共に「自分はこれが好きだ」と思える物をどんどん見つけてみて下さい。卒業後いかなる道に進むにせよ、きつとどこかでそれらが人生の役に立ってくれる時が来るのではないかと思います。

## Message from TOMIDAI OB&OG

Hello

## ハロー先輩

大学ではアルミニウムや銅を主とする軽金属を対象に、材料設計学と有限要素法を用いた研究に取り組んでいました。幾つかの物質を混ぜ合わせることによって機能性や生産性を向上させる「工業用材料」に関心を持つようになり、実製品を生産する企業技術者の道に進みました。

弊社工機技術本部 分析解析センターでは、①YKKグループ内の金属・樹脂・複合材料の材料分析、②製品形状や製造工程の流動・構造解析、③製品をつくるための専用機械を対象にした設備開発や改良の支援、④事業部課題共同PJへの参画を手掛けています。即日対応のものや、原理原則の解明に基づく新規開発テーマなど、

### 人間力を高めて 総合的な課題解決力を養ってほしい

毛色の異なるテーマを掛け持ちで進めます。入社後は自分の不器用さや材料を扱うことの難しさに頭を抱えていましたが、知らないことやわからないことを整理して、課題の解決策を具体的に提案できるようになってからは、技術者間の会話もスムーズになり、ものづくりが積極的に入り込めるようになりました。また、仕事も研究も一人の力では成し得ません。協力してくださる方々への感謝の気持ちを忘れてはいけないことも日々実感しています。

大学では人間としての基礎をつくる大切な時間を過ごします。目的意識をもって、いきいきと学んでほしいと思います。指導教官や講座の仲間と熱く語りあう以外にも、他講座や他学部の友人と積極的に会話して異分野の視点を取り入れたり、卒業された先輩方の体験談を聞いて、人間力を高めたい総合的な課題解決力を養ってほしいと思います。



## 水林 舞さん

- 勤務先 / YKK株式会社工機技術本部 分析解析センター
- 修了年月 / 2002年3月
- 専攻課程 / 大学院理工学研究科博士前期課程物質工学専攻

## 女子ソフトボール部



私たちは女子ソフトボール部です。夏の暑さにも冬の雪にも負けず週三回楽しく活動しています。ソフトボールという難しいスポーツに思われるかもしれませんが、そんなことはありません! 大学から始めた人も優しい先輩や熱心な指導者の方に指導してもらってめきめき上達できます。試合のヒーロー間違いなし!

大会は北信越地区で開催されるので県外の場合は泊りがけで行きます。試合が終わった後にみんなで観光するのも一つの醍醐味です。

また、秋にはOG戦もあり卒業された先輩方とも交流を深めることができます。

現在部員数が少なく、大会への出場が難しいときもありますが、県外の大学と練習試合をしたり、今年からは県内の高校生と合同練習をしたりと実践的な練習にも力を入れています。ソフトボールが好きな方、運動が好きな方、新しいことを初めてみたい方はぜひ一度足を運んでください! グラウンドで待っています。

## 杉谷キャンパスダンス部



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます! ダンス部では主にストリートダンスと呼ばれる種類のダンスを踊っています。基本的には学祭を大きな目標として活動しており、他にも五福キャンパス、高岡キャンパスと合同で行うDNAという自主公演、個人でクラブイベントに参加するなど活動の幅は自由です。もちろんダンスだけではなく、バーベキューをしたり、飲み会をしたり、夏には合宿なども行います。活動場所は体育館入ってすぐ左の第二体育館、練習日は毎週月曜日と水曜日です。が、結構な確率で他の日もダンス部の誰かが踊っています。七時くらいに部屋の前に行けばきっと中から音楽が聞こえてくるはず! 内履きを持って動きやすい服装で来てもらえれば練習に参加、体験できます。

新歓公演として春ダンスも図書館前広場で行いますので、少しでも興味のある方はぜひぜひ見に来てください!!

## 放送研究会



私たち放送研究会は、ラジオ・映像作品の制作、アナウンス・朗読技術の研鑽などに取り組むサークルです。作品制作はラジオドラマ、テレビドラマやドキュメンタリーなど多岐に渡り、コンテストでの受賞歴も多数あります。また、コミュニティ放送局「FMとなみ」にて「FUNFUN出張版」を放送させていただいています。

地味で大変そう...と思われがちですが、活動は各自好きな時でOK。仲間と共に作品を作り上げる喜びは、ここでしか味わえません。脚本、放送機材や音声・映像の編集、演技、アナウンス・朗読に興味のある方は、ぜひ放送研究会にお越しください。初心者大歓迎です。4月には新入生向けのお花見、新歓も予定しています。詳しくは「富大放研」で検索!

### 2015年度の主な活動

- ・北放送 参加(夏・冬季の2回開催)・夏合宿・学祭での作品上映・発声練習
- ・全国地域映像団体協議会主催 全映協グランプリ2015 学生部門最優秀賞 受賞

富山湾の海の幸  
“白えび”と“ほたるいか”を使用  
富山大学生協で販売中♪



## メールアンケートのお願い

富山大学広報誌「Tom's Press」の今後のより良い誌面作りのため、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。本号のアンケートにご協力いただいた方の中から、抽選で3名様に『富大せんべい』を進呈いたします。そのほか、アンケート回答者全員に記念品をお送りいたします。

## 富大せんべい

【プレゼント応募締切】

**平成28年4月20日(水)必着**

※ご記入いただいた個人情報は、プレゼントの発送以外には使用いたしません。また、当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

### 【回答項目】

1. 本誌を読んだきっかけ(「〇〇(施設名)に置いてあった」など)
2. 本号で興味を持った記事とその理由
3. 表紙デザイン、誌面構成、内容など全体的な感想または印象
4. 関心・興味のある分野、これらから取り上げてほしいテーマ、その他ご意見・ご要望
5. (プレゼントをご希望の方)お名前、ご住所

【メール送付先】 catch@adm.u-toyama.ac.jp

回答項目1~5について、メール本文に記載の上、上記宛先までお送りください。

### 01 高岡市立博物館

古城公園内(高岡城址)にある、高岡の歴史的特質を紹介する博物館。常設展では特に、前田利長文書・高岡城図・明治商家・引札・銅漆器製作道具・下図など館蔵品を中心に展示している。

### 02 高岡市美術館

美術工芸、金属造形が盛んな高岡で、郷土にゆかりが深い作家や大きな影響を与えた作家の作品を中心に収集、保存、展示をしている美術館。平成27年12月には、館内に「高岡市藤子・F・不二雄ふるさとギャラリー」がオープンし、藤子・F・不二雄のまんがの「原点」を展示している。

### 03 高岡市万葉歴史館

天平18年(746)より5年間、大伴家持は越中国守として、当時国庁が置かれていた高岡・伏木に居住した。越中を舞台にした家持の歌300首以上が『万葉集』に収録されている。この家持の「越中万葉」と『万葉集』の研究機関として、また展示・教育施設として活動している。

### 04 高岡市美術館・高岡市万葉歴史館での講義風景

学芸員の講義を聴く芸文の学生たち。学外講義は今年で5年目を迎えたが、学芸員を目指して大学院で研究を続ける学生が毎年出ている。高岡での学修が実を結び、学芸員として職を得ることができたら、人々の文化的生活の向上に貢献してほしい。



02



01



03



04



04

# TOM'S GALLERY

## 「博物館資料論」高岡の3館で学外講義

「博物館資料論」では、博物館資料とは何か、についての基礎的な知識の習得に始まり、いかに資料を収集し活用すればいいのかを、博物館・美術館における事例をふまえながら学びます。博物館資料に関して、学芸員として必要な基本理念と姿勢について理解する能力を養う科目です。

芸術文化学部では、学内での講義のほか、高岡市立博物館、高岡市美術館、高岡市万葉歴史館の3館において、各館の学芸員による講義を実施しています。博物館でも、歴史系と美術系、また文学館とでは、収蔵している資料の性質が異なります。そこで知識の習得だけでなく、現場の学芸員に、収蔵庫や学芸室などのバックヤードを案内していただき説明を受けたり、また収蔵資料に触れながら特徴を学ぶことで、歴史系、美術系、文学系資料の違いをより深く理解できるようにしています。また資料の多様性と同時に、学芸員の説明からは、資料を扱う者の責任感や緊張感も学修することができていると感じています。

このように、芸術文化学部が立地する高岡における3館について、より専門的に理解を深めたのですから、学生たちには、地域の博物館や美術館の特色や素晴らしさを、今後多くの人々に紹介してほしいと思っています。

〈芸術文化学部／講師 三宮千佳〉

## 富山大学広報誌 トムズプレス

発行日：平成28年3月15日

発行：国立大学法人 富山大学

編集：トムズプレス専門部会

- 飯田 敏 大学院理工学研究部(理学)教授
- 池田 真治 人文学部 准教授
- 南部 寿則 大学院医学薬学研究部(薬学)准教授
- 渡邊 雅志 芸術文化学部 准教授
- 早川 芳弘 和漢医薬学総合研究所 准教授

問合せ先：富山大学総務部広報課

〒930-8555 富山市五福3190

TEL 076-445-6028

FAX 076-445-6063

E-mail kouhou@u-toyama.ac.jp

<http://www.u-toyama.ac.jp/>

TOM'S PRESSはインターネットでもご覧いただけます。

本誌は、富山大学構内などで無料配布しています。郵送を希望される方は、住所・氏名・年齢・性別・職業を明記の上、メール又ははがきでお申し込みください。

本誌は、年4回、3ヶ月毎に発行します。ご意見、ご要望を是非お聞かせください。

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。再生紙と大豆インクを使用しています。



無断転載はご遠慮ください。

印刷・製本 能登印刷株式会社

ISSN 1880-6678

## Cover Story

### “富山大学附属中央図書館 書庫” 経済学部

富山大学五福キャンパスにある富山大学附属中央図書館の受付の奥に、4階建ての書庫があります。この書庫には、経済学部の前身である高岡高等商業学校蔵書の一部が保管されています。これらの蔵書は実に90年以上の歴史があり、中には世界的に希少なものもあります。高岡高商蔵書のほとんどは経済学部資料室にあり、今日も利用されています。高岡高等商業学校、高岡工業専門学校、富山大学工学部、経済学部と変遷を経て重ね張りされたラベルに、蔵書が辿ってきた90年の重みを感じます。

表紙担当／濱田悠歌 松野奈々

撮影／村中衣奈 (すべて芸術文化学部生)

表紙監修／芸術文化学部 准教授 渡邊雅志

